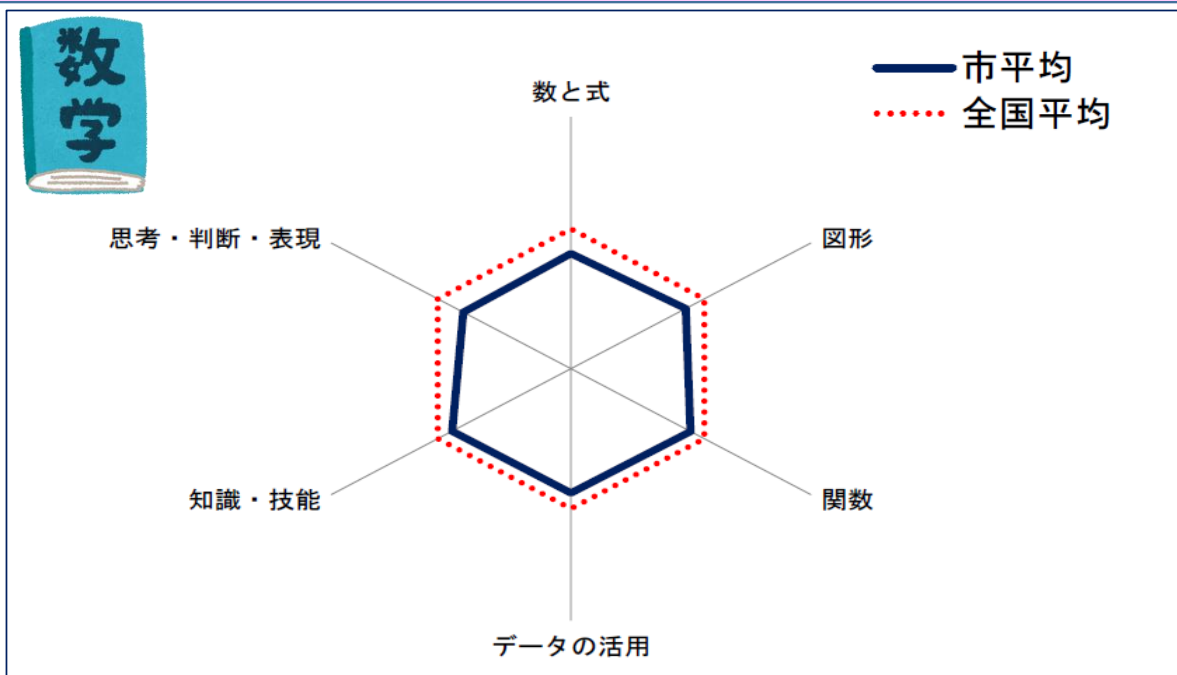




新居浜の中学生は、全体として「全国平均より低い」調査結果でした。



よくできていた  
 数学問題

「数と式」領域で「問題場面を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかを見る」短答式問題がよくできていました。

「データの活用」領域で「2枚の10円硬貨を投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める」短答式問題がよくできていました。起こり得る全ての場合から確率を求めることができる生徒が多かったです。

結果を受けてこれから取り組んでいきたいこと

「数と式」領域で「 $n$ を整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれ文字を用いた式で表す」短答式問題の正答率が低かったです。授業では文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え、説明できるように指導していきます。

「データの活用」領域で、問題場面の傾向を箱ひげ図を比較して説明する問題の正答率が低かったです。指導の改善として、複数のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動や箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを根拠に説明することを大切にします。

記述式の問題は、他の問題より正答率が低く、無解答率は高くなっています。なぜ無解答か、授業等での観察により、生徒個々の状態を知って、学習指導に対応していく必要があります。



大問は長い文章資料になっています。まずそれらを落ち着いて読み取ることが必要です。そして、基礎的な知識を基に、筋道を立てて考え、表現していく活動を、授業の中でも積み重ねるようにしていきます。